

# 「学力向上ポートフォリオ(小学校版)」

## 学力向上目標

全ての児童に対して、

- 1人1台端末を活用した授業を積極的に行い、有効な場面・有効な方法を模索し、自ら課題を解決できる知識・技能を確実に習得させる。
  - ・当該学年で習得すべき漢字の読み書きができる。(自校テストで8割以上にする。)
  - ・たし算・ひき算・かけ算・わり算ができる。(自校テストで8割以上にする。)
- 自ら考え(情報を整理)、自分の言葉で正しく表現(考えをまとめ表す)できる思考力・判断力・表現力を高める。
  - ・さいたま市学習状況調査【生活習慣等に関する調査】における「教育の情報化推進事業」の肯定的な回答を前年度より2pt以上向上させる。
- 学び方を身につけ、学ぶ喜びを知り、進んで物事に取り組む態度を涵養させる。
  - ・「よい授業」の因子④(児童生徒の活動)の肯定的な回答を前年度より2pt以上向上させる。

## 具体的な手立て

- ①さいたま市学習状況調査結果を分析し、実態を把握する。
- ②1人1台端末に触れる機会を設定し、その時間を確保する。
- ③週に1回、1人1台端末に対する抵抗感を軽減するための取組を企画する。
- ④授業の導入等で1人1台端末を使い、児童の学習意欲の喚起を図る。
- ⑤昨年度までの研究成果「安心感のある学級集団づくり」を共有・継続する。
- ⑥学年会や教材研究の時間を確保し、授業に関わる協議を日常化・活発化させることで、実態と課題に合った指導の方策を構想する。
- ⑦思考の視点やグループ協議の役割などを明確にして、授業に取り入れる。
- ⑧研修の時間や授業公開、授業に関する協議会を設け、授業改善を促進させる。

## 結果

- ・自校テストでは、漢字の習得率は85.9%、計算の習得率は89.2%であった。
- ・さいたま市学習状況調査における「教育の情報化推進事業」の肯定的な回答の割合の平均が、令和2年度の値より10.2pt向上した。
- ・「よい授業」の因子④(児童生徒の活動)の肯定的な回答は、令和2年度の値より0.6pt向上した。

## 今年度の振り返り・次年度に向けて

知識・技能、思考力・判断力・表現力等の成果指標を達成することができた。主体的に学習に取り組む態度については、児童とともに魅力的な課題を設定し、練り上げ、まとめ、振り返り等の過程を経ることで、学び方を身に付けられるようになってきた。

次年度は、児童の「質問力」「評価力」の向上も意識しながら、学ぶ喜びを知り、進んで物事に取り組む態度を涵養できるようにしていく。